

第4学年 道徳科学習指導案

平成30年 6月27日(水) 第5校時

- 1 主題名 深く思い合う友達 内容項目 [B 友情, 信頼]
- 2 ねらい 赤おにと青おにの思いを多面的・多角的に捉えることを通して友達と思い合う大切さを理解し、よりよい友情関係を築こうとする実践意欲と態度を高める。
教材名 「泣いた赤おに」(出典:「みんなの道徳」 4年 学研教育みらい)

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容について

本主題は、第3学年及び第4学年における内容項目 [B 友情, 信頼]「友達と互いに理解し、信頼し、助け合うこと。」を深めることをねらいとしている。これは、第5学年及び第6学年の内容項目 [B 友情, 信頼]「友達と互いに信頼し、学び合って友情を深め、異性についても理解しながら人間関係を築いていくこと。」へと発展していくもので、友情関係における基本とすべきことであり、友達との間に信頼と切磋琢磨の精神をもつことに関する内容項目である。

児童にとって友達関係は最も重要な人間関係の一つであり、友達関係の状況によって学校生活が充実するか否かが方向づけられることも少なくない。よりよい友達関係を築くには、互いを認め合い、学習活動や生活の様々な場面を通して理解し合い、協力し合い、助け合い、信頼感や友情を育んでいくことが大切である。4年生の児童は、活動範囲が広がることで、集団との関わりも増え、友達関係も広がってくる。また、気の合う友達同士で仲間をつくって楽しもうとする傾向があり、集団での活動がこれまでになく盛んになる。学習においても共同学習等を通して学び合いや助け合いの場面が増え、高学年に向けて人間関係のさらなる充実が期待される段階である。しかし、自分の利害にこだわることで、友達とトラブルを引き起こすことも少なくない。このことから、豊かな生活を育むための大切な存在として、信頼し合える友達関係づくりが求められる。そこで、友達とより深い友情を育むためには、自分のことだけでなく友達の立場に立ち、互いに思い合い、助け合うことが大切であるということに気づかせ、よりよい友達関係づくりをしていくための意欲を育むことができるよう本主題を設定した。

指導に当たっては、自分自身の友達との関係について考え、その関係をよりよくしていこうとする実践意欲と態度を育てていくことが大切である。そのために、本主題では登場人物について多面的・多角的に考えることを通して互いを思う友達関係の素晴らしさを実感し、実践していこうとする意欲を高められるよう指導していきたい。

(2) これまでの学習状況及び児童の実態について

本学級の児童は、男女共に仲が良く、休み時間にはみんなで集まって遊んでいる。さらに、友達に対してよいことも悪いこともはっきりと伝えることができる。話し合いなどでも自分の考えを積極的に相手に伝え、互いに意見を交流することもできている。また、困っている友達がいると、「大丈夫?」と声をかけ、一緒に解決しようとしてあげたり、時には手助けをしてあげたりと、友達を思いやる姿が見られる。しかし、特に生活面においてまだまだ相手の立場になって考えることができない児童もいる。自分本位ともみられる言動で友達と衝突してトラブルを起こしたり、相手を困

惑わせてしまったりする場面も見られる。

これまでも、児童は道徳の時間に友情について考えを深めてきた。3年「絵葉書と切手」では、誤りを指摘してあげることが友達への本当の優しさであることを話し合った。その後、生活の中でも正しいことを伝え合う姿がよく見られるようになり、4年生でもよくできている子が多い。

学習にあたり、児童の友情観についての意識調査をするため、本学級の児童に「よい友達」についてのアンケートを取った。結果は、以下の通りである。

Q どんな友達がよい友達だと思いますか。			
優しい人	25人	一緒に遊んでくれる人	5人
こまったときに助けてくれる人	4人	話を聞いてくれる人	3人
おもしろい人・盛り上げてくれる人	3人		
一緒にいて楽しい人	2人	誰とでも公平に仲よくできる人	1人

アンケートでは、よい友達は「優しい人」と大多数の児童が認識していることがわかる。具体的には、一緒にいて楽しい人や面白い人、一緒に遊んでくれる人など、楽しい時間を共有する相手がよい友達だと考えている児童がいる。その一方で、助けてくれる人、話を聞いてくれる人など、自分の経験と結びつけ、いつでも理解して支えてくれる人をよい友達と認識している児童も多い。これらの結果から、よい友達とは、悩んでいるときや大変なときに自分のことを思いやってくれる人であるという考えをもっていることがわかる。しかし、先に述べた通り、普段の生活では譲ってもらったり、優しい言葉をかけてもらったりすることが多くあっても、自分からはなかなか友達の思いを押し量って相手のために行動することができない児童もいるというのが現状である。

子どもたちは今後、成長していく中で様々な人々と交流をもち、真に信頼できる友達をつくり、困難があっても共に支え合って成長していくであろう。その際、よりよい友情を築いていくために、本教材での学習を通して友情について深く考えさせていきたい。そして、楽しい時間を共に過ごすだけの関係ではなく、悩み、苦しい時こそ相手のことを思いやり、助け合っていくことこそが、素晴らしい友情関係であることに気づかせたい。さらに、そういった友情を育てるために、自らも友達の思い、互いに思い合える友情関係を築くことの大切さを自分自身と結びつけて考えさせていきたい。

(3) 教材の特質や活用方法について

本教材は、赤おにと青おにの互いを思い合う深い友情などを通して、ねらいに迫るものである。

人間と仲良くなりたい赤おにのために、青おにが芝居を打つ提案をする。赤おには躊躇するが、青おにに連れられて村へ下りていく。村で暴れる青おにを懲らしめ、優しいおにだと思わせることで、赤おには人間からの信頼を得て、仲良くなることができる。しかし、青おには赤おにが人間に疑われないように赤おにの下を去る。そして赤おには去った青おにの家に貼られた紙を読み、青おにを思って涙を流すという話である。

本教材を活用し、赤おにが青おにの思いの深さに気づき、青おにを深く思う様子に気づかせたい。そして最後には、自分の友達関係における現状認識を深めるとともに、これから目指したい友達とのかかわり方を意識させるなど、よりよい友達関係づくりを目指そうとする前向きな姿勢をもたせたい。

そのために、赤おにや青おにの姿を通して以下の視点について話し合うこととする。

1 赤おにと青おにについて

ここでは、青おにの行動と赤おにを思う気持ちの素晴らしさに気づかせると共に、赤おにに

も青おにを思うが故の心の迷いがあったことをおさえる。また、相手を思い行動する2人の友情を比較すると青おにの方がより深く、いつも赤おにを思っていることがわかる。そんな青おにのやさしさについても押さえつつ、赤おにの人柄も想像させることによって多面的・多角的な思考を促していく。

2 赤おにが涙を流しながら考えていたこと

ここでは、青おにの家の貼り紙を見た後の赤おにの深まった青おにへの思いについて考えさせ、青おにに対しての思いの深まりに触れていく。そこから、よりよい友達関係の在り方について自分自身と照らし合わせながら考えさせていき、思われるだけでなく、友達を心から思うことの大切さに気づかせていく。

以上の理由から、本主題を設定した。

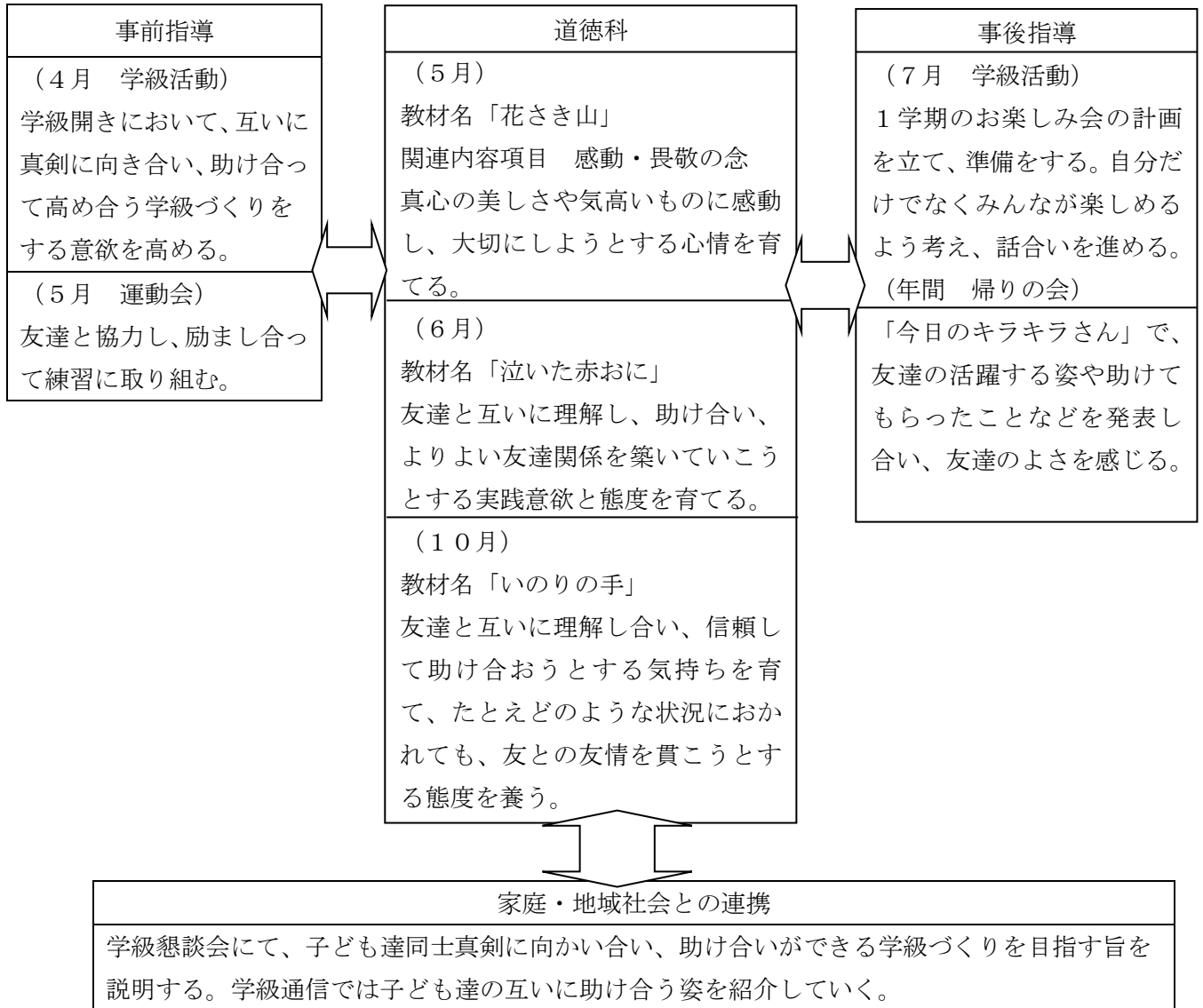
4 学習指導過程

段階	学習活動・主な発問	予想される児童の発言	指導上の留意点 ☆評価の視点	時間
導入	1 アンケートの結果を知る。 ・どんな友達がよい友達だと思いますか。		・事前にとったアンケートの結果を示し、本時の方向付けを図る。	2
	2 本時の課題をつかむ よりよい友達関係をつくるために大切なことは何だろう		・本時では、「よりよい友達関係」について考えていくことを伝え、課題意識をもたせる。	1
	3 教材「泣いた赤おに」の読み聞かせを聞き、赤おにと青おにについて話し合う。 (1) 赤おにと青おにについてどう思いますか。	青おに ・赤おにのことを考えていて優しい ・どうしてそこまでしてあげたのかわからない。 ・なんでいなくなってしまったのだろう。 ・自分よりも赤おにのことを考えている。	・大型テレビを活用して挿絵を見せつつ、BGMを入れて作品に入り込めるように判読する。 ・児童の事前の感想をもとに気になった場面の人数を挿絵の下にを貼り、児童が気になった場面について確認する。 ・青おにの行動や様子から、赤おにへの思いについて簡単におさえる。 ・赤おにと青おにを対比させて板書することで、2人の友情観を捉えやすくする。	10 7

	<p>(2) 貼紙を見て涙を流しながら赤おにはどんなことを思っていたでしょうか。</p> <p>・青おにはなぜそこまでできたのでしょうか。</p>	<p>赤おに</p> <ul style="list-style-type: none"> ・赤おにだけ人間と仲よくなつてくれる。 ・青おにのことを考えていて優しい。 ・人間となかよくなれてよかった。 ・青おにの気持ちがわかっている。 ・ぼくのためにここまでしてくれたのに、ぼくは自分のことばかり考えていた。 ・青おにに謝りたい。 ・帰ってきてほしい。 ・青おにが一番ぼくのことを考えてくれていた。 ・青おにくん、ありがとう。 ・赤おにに幸せになってほしいから。 ・赤おにのためにできることをしたかったから。 ・赤おにを自分より大切に思っているから。 	<ul style="list-style-type: none"> ・赤おにの優しさや思いやりについては、青おにとの思いの深さの違いを数直線で示す。全員に挙手させることによって一人一人が思いの深さの違いを考えることができるようにする。 ・ワークシートに思いを書かせることで、赤おにの心情を十分に考えられるようにする。 ・赤おにの思いを改めて考えることで、友達のことを思っで行動した青おにの深い友情と、青おににそこまでさせた赤おにとのつながりの深さを感じ取らせたい。 ・赤おにはその後どう思うかについてもふれ、自分を思ってくれた青おにの深い思いに赤おにが気づいたことをおさえたい。 <p>☆涙する赤おにの様子からその心情を考えたり、青おにの深い思いを考えたりする中で友達を思っで行動しようとする事の大切さに気づいている。</p>	15
5	<p>今日の学習を振り返る</p> <p>・今日の学習を通して、よりよい友達関係をつくるためにどんなことが大切だと思いましたか。感じたことや、これからしていきたいことを書いてみましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・友達からしてもらうだけでなく、私も友達のために何かできるようになりたい。 ・いつも私のことを考えてくれる友達を大切にしていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・書く活動を通じて、一人一人が道徳的価値の自覚を深められるようにする。 <p>☆これから、どんな気持ちで友達と接することがよりよい友達関係につながるか、考えている。</p>	7

終末	6 みんなの花コーナーを見て、今日の学習を振り返る。		・友達を思ってしてあげたことやしてもらったことのエピソードを集めたコーナーを見て、友達と思い合う素晴らしさを感じさせる。	3
----	----------------------------	--	--	---

5 他の教育活動との関連



6 評価の視点

【物事を多面的・多角的に考えている様子】

- ・赤おにと青おにそれぞれの立場について考え、友だちを思って行動することの大切さについて話し合っている。

【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

- ・友達と思い合い、よい友情関係を築いていこうとする意欲を自分自身に当てはめて高めている。

泣いた赤おに

赤

親しい
友だち

青

・青おにのことを考えていてやさしい
・青おにの気持ちがわかる
・親切なおに

・赤おにのことをそんなに考えているなんてすごい
・何でも相談できる
・赤おにのためにやってくれてやさしい

友情レベルチェック (数直線)

よりよい友達関係をつくるために大切なことは何だろう

・帰ってきてほしい
・会えなくて悲しい
・青鬼くんにあやまりたい
・青おにくんといっしょにいたい
・気持ちがうれしい

・赤おにに幸せになってほしい
・赤おにのためにできることをしたい
・赤おにのほうが一番

◎今日の学習を通して